

第2回 結城南中学校区新設校推進委員会議事録

結城市教育委員会

第2回 結城南中学校区新設校推進委員会議事録（要旨）

- 日 時 令和4年7月27日（水曜日）午後6時30分から午後8時10分
- 場 所 結城市役所 大会議室1・2・3
- 出席委員
- | | | |
|----------|----------|-----------|
| 委員長 小島 睦 | 副委員長 関 篤 | |
| 委員 田村 俊之 | 委員 栗山 良一 | 委員 湯本 勝洋 |
| 委員 塚田 裕史 | 委員 村田 則文 | 委員 阿良山 輝明 |
| 委員 齊藤 貴樹 | 委員 平間 将之 | 委員 山中 裕太 |
| 委員 大熊 健児 | 委員 松浦 英修 | 委員 永藤 嘉重 |
| 委員 赤塚 英男 | 委員 栗原 隆雄 | 委員 池田 浩一 |
| 委員 大島 茂男 | 委員 小嶋 久男 | 委員 江連 浩 |
| 委員 稲葉 敏次 | 委員 船橋 清 | 委員 秋元 勇人 |

○教育委員会事務局

教育長 黒田 光浩	教育部長 飯田 和美
学校教育課長 大木 博	学校再編係長 和泉田 真
主幹 伊佐岡 真美	

●次第

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 議事
 - (1) アンケート調査について
 - (2) 新設校の学校種について
 - (3) その他（小中学校概要について）
- 4 その他
- 5 閉会

○要旨

1 開会

2 委員長あいさつ

- ・第2回目の会議ではアンケート調査内容を決定するが、実施意義としては新設校や小中一貫教育についての不安課題を解消して児童生徒、保護者、地域の方の期待に応えられる学校とすることを目的に基本構想や基本計画を充実させるための調査となり、結城市の取り組みの丁寧さということに大変好感を持っているところである。学校種については、今後の方向性を決める重要な事項になるので忌憚ない意見等いただきたい。

3 議事

(1) アンケート調査について

【事務局説明】

- ・小中学校の児童生徒を対象としたアンケートは7月21日(木)から夏休みが始まるため前回の委員会で配布した事務局案に対する意見募集の期限とした7月15日(金)までに意見があったものについて反映し、紙のアンケートで既に実施済みである。
- ・保護者向けアンケートの実施方法は各学校で使用している連絡メールによりアンケートフォームのURLを送りWeb上で回答する方法を提案する。この方法であれば、夏休み中であっても全保護者宛てに依頼することが可能であり、家族で新設校のことを話題にして回答することが期待できる。アンケートの主な内容は統廃合方針の認知度や推進委員会の検討内容の周知方法、新しい学校に求めることや課題などを聞く設問である。
- ・地域住民向けアンケートは対象地区の全戸に対して、お知らせ版の配付にあわせて紙のアンケートと返信用の封筒を一緒に配付し、返信用封筒により回収するという方法を提案する。小学生や中学生がいない世帯や今後小学校に上がる幼稚園生や保育園児がいる世帯を網羅し意見を聞く設問としている。区長会長の委員においては他の自治協力員への声掛けやアンケートの周知について協力をお願いしたい。今回の委員会で決定後、8月15日号のお知らせ版と一緒に配り8月31日(水)を回答期限とする方法を提案する。
- ・五つの小学校と結城南中学校の校長を含む教職員向けのアンケートは、新しい学校への提案や課題を聞く内容とし、保護者向けと同様にWEB上で回答する方法を提案する。

【意見】

- ・「学校適正配置等に関する方針」の概要説明に「新しい小学校の場所は、結城南中学校の敷地内または隣接地」とあるが建設場所についての問題は無いのか。
- ・新設統合に期待することを問う設問で「教職員配置の充実や弾力化」とあるが、保護者や地域の方にとっては、小学校と中学校が隣接する場所にあることで中学校の音楽や美術の先生が小学校で教えることができるといったイメージをしにくいのではないのか。
- ・新設統合についての課題を問う設問で、スクールバスに関する課題が出てくるのが予想されるので「スクールバスを利用する基準に関する課題が発生する」という選択肢を入れるのはどうか。
- ・新しい学校の建設にあたり大切だと考えることを問う設問で「地域の方に開かれた学校」という表現があるが、学校運営上での意味と誤解する可能性があるため、地域の方に開放する体育館等といった施設面での意味になる表現とした方がよいのではないのか。

【意見に対する事務局の回答】

- ・方針の時点では新設校の候補地として「結城南中学校敷地内」又は「隣接地」としていたが、土地買収が必要になると令和9年開校には間に合わなくなることや結城南中学校敷地内であっても十分敷地を確保できると想定されることから「結城南中学校敷地内」での新設校が現実的と考えている。
- ・スクールバスに関することについて多くの意見があることは考えられるが、基準を含めスクールバスに関することについては市が独自に決めるのではなく保護者や学校関係者と一緒にこれから検討していくことを想定しているため「スクールバスを利用する基準に関する問題が発生する」という選択肢は設定していない。
- ・専門的な用語は使用せず、分かりやすい表現に修正する。

(2) 新設校の学校種について

【事務局説明】

- ・市が目指す小中一貫教育について以下の通り説明。
 - ア 市では平成28年の学校教育法改正で小中一貫教育が義務教育学校や小中一貫型小学校・中学校として制度化される前から、小学校と中学校が連携し教科指導や生徒指導、特別支援教育など学びと育ちの連続性を考慮した教育活動を進めていた。
 - イ 令和4年3月策定の「結城市学校適正配置等に関する方針」において、結城南中学校区内の小学校統合に合わせて小中一貫教育を推進することとしている。なお結城南中学校区や結城東中学校区においても各学校の現状や将来の方向性を踏まえて小中一貫教育校を推進していくこととしている。
 - ウ 小中一貫教育のメリットとして、一つ目にいわゆる中1ギャップの解消、二つ目に豊かな心の育成、三つ目に地域と一体化した教育環境の整備の推進を挙げる。
 - エ デメリットについては9年間の教育課程の中で人間関係が固定化し新しい環境で心機一転を図れないことが挙げられる。中学進学という大きな節目で学校行事を工夫し、子供たちの心のケアを大切にしていく。
- ・資料1-1「小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引」の抜粋及び資料1-2 結城南中学校区新設校における学校種の考え方にに基づき説明。
- ・結城南中学校区の新設校における考え方として小中一貫型小学校・中学校の方が地域性として優位であると考え理由を以下の通り説明。
 - ア 絹川小学校区の小森・宮崎・久保田・慶福の児童は結城東中学校が指定校となっているため、義務教育学校での途中転校より小中一貫型小学校卒業で小学校課程の区切りがつくため中学校変更に対するハードルが低くなる。
 - イ 小学校と中学校それぞれに校長先生を置くことにより、成長過程におけるきめ細かい対応が可能。令和9年度推計で小学校461人、中学校340名であるため9年生義務教育学校となった場合、校長や教職員の負担が大きくなると考えられる。
 - ウ 義務教育学校では実施しない入学式や卒業式といった節目となる学校行事の実施により、地域全体で子ども達の成長を見守るという意識を高め地域との交流や繋がりをより大切にすることができる。
 - エ 結城南中学校の校舎は機能的な変更は加えず、現状を生かす予定である。

【意見】

- ・ 絹川小学校区のうち小森・宮崎・久保田・慶福の地区は、小学校は新設校に行き、中学校については南中学校区になるのか、これまでどおり結城東中学校が指定校なのか。

【意見に対する事務局の回答】

- ・ この地区の指定中学校を結城南中学校に変更する事務局案を、去年のアンケート調査により聞き取ったが、距離の問題や道路状態が暗くて不安があることから、現状のままが良いという意見が多かったので学区は変更しない方向で考えている。

(3) その他（小中学校の概要について）

【事務局説明】

- ・ 基本構想・基本計画の策定に必要である教育グランドデザインや施設コンセプトについて次回の会議で協議をしたい。その前段として各校長の委員からそれぞれの学校の現状や特徴的な取り組みについてご説明をお願いし、委員の皆と情報共有したい。

【委員説明】

絹川小学校：目指す児童像は校歌の一部を採用しているが校歌も無くなるため今後検討が必要。働き方改革の推進として「午前中 5 時間授業」に取り組んでおり、子ども達にとって無理のない状態で進められているが、新設校での取り組み方法について今後課題になると考える。

江川北小学校：学区が非常に広いため片道 50 分以上歩く地区があり雨天時などは保護者による送迎が多い。特徴的な教育として結城ロータリークラブの支援を受けての健康の森での自然に関する学習、JA 北つくば南支店の支援を受けての稲作の学習、香取前遺跡を活用した地域の歴史を学ぶ学習を行っている。今年は未定だが、例年保護者・地域の支援を受けてえほく祭りを実施している。

江川南小学校：全児童数 67 人と年々児童数が減少している。今年入学の一年生が 6 名であるため来年度複式学級になるという想定で準備の方を進めている。一番南の学区であるため新設校の位置的な心配もある。教育活動の特徴として枝豆作りや白菜作りを通じて地域の教育力を生かした学校づくりを進めている。統合になったとき各学校の良さが生かしていけるように進めていきたい。

山川小学校：特徴ある教育活動は「違いを認め合える教育」として多様性が認められる子どもの育成に力を入れていること、地域のコミュニティである山川文化会館が隣接していることを生かして山川文化会館と連携した事業を実施していることが挙げられる。統合によって山川文化会館との関係がなくなることが課題である。

上山川小学校：学区には国指定文化財の結城廃寺跡があることから子ども達に自分が住むふるさとが素晴らしいということを知らせたい、味合わせたいと考え今年度学校教育目標を「ふるさとを愛し地域とともに育成する」に変えた。特色ある教育活動としては 6 年間を通じた地域学習を実施している。学校、PTA、地域の連携による上小フェスタ三世代交流を 11 月に実施する。

結城南中学校：「基本的な生活習慣の徹底なくして向上なし」を掲げ、「意欲」と「思いやり」と「命」を身につけ社会に送り出すという考えのもと進めている。「知徳体」のバランスの取れた学習習慣の習慣化を目指す学力向上プロジェクト、友情の木を核とした命に特化した授業による命プロジェクト、第6次結城市総合計画、創立50周年事業の位置付けによる小中一貫教育を見据えた「ふるさと学習」からなる文教ゾーンプロジェクトの3つを進めている。

4 その他

【事務局説明】

- ・ 次回の会議では新設校の学校種、目標やコンセプトについて意見をもらいたい。
- ・ この会議の検討内容を所属している組織全体で共有し、地域からの意見を吸い上げ今後の会議や教育委員会に意見をあげてほしい。

5 閉会